

平成28年度事業報告及び附属明細書

(平成28年1月1日から平成28年12月31日まで)

1. 事業概況

2016年の経済環境をみますと、6月の英国国民投票においてEU離脱が支持され、11月の米国大統領選ではトランプ氏が選ばれるなど大方の予想に反した事象がおり、金融市場は混乱・乱高下に晒されました。特に、為替市場では、年初から11月の米国大統領選にかけて大きく円高が進み、我が国の企業収益・経済への悪影響も懸念されたものの、大統領選以降は一転ドル全面高となり、円安への揺り戻しが起きました。こうした混乱にも関わらず世界経済全体として、先進国は米国を先頭に低成長ながらも循環的な回復基調を継続し、新興国経済も原油価格の反転もあり持ち直すなど明るさがみられました。我が国経済についても、年初来円高傾向が続いたことに加え、成長戦略の面でのアベノミクスへの期待感の薄れ、金融政策の手詰まり感などから、停滞懸念が強まりつつありましたが、その後、年末にかけては、企業業績の底堅さに為替円安回復もあり、楽観的な見方が広がりました。

このような経済状況の下、当財団の金融資産の運用益は為替円高の影響から大きな減収が懸念されましたが、年末為替レートはドル116円と予算想定レートに近いところに収まったことから金融

収益の減収幅は小幅にとどまり、また賃貸住宅の事業収益が予想を上回った結果、経常収益は、93,724千円とほぼ期初予算と同額となりました。しかし、好調だった前年度に比べると、期中の円高を受けた債券収益の減少により減収幅は14,230千円でした。一方、経常費用は、助成金・寄付金の交付を抑えた結果、77,154千円と、前年度比10,019千円の減少となりました。

以上の結果、経常収支は期初予算を約5百万円上回る16,570千円の黒字（前年度は20,781千円の黒字）となりました。

金融資産の評価損益等は、円高による外貨建債券の評価損を中心に84,055千円のマイナスとなりました。以上のような経常収支及び金融資産の評価損益等を反映した、期末の正味財産残高合計は、2,461,749千円で、前年度比67,696千円の減少となりました。

このように、28年度の収益、財産状況は変動幅の大きかった経済環境の中においてはますますのものとなりましたが、今後については、米国新政権の政策および利上げの動向、中国経済の行方、フランス大統領選・ドイツ議会選挙などEUを巡る不安など、市場リスク要因が多々あることから、引き続き注意深く慎重な金融資産の運用に努めて参ります。

2. 事業別内訳

(1) 公益事業

今年度は、金融資産の運用が前期比低調に推移したことから、助成、寄付活動を抑制しました。助成・寄付の対象分野については、引続き若者支援に重点を置き、自立支援ならびに児童ホスピス等の福祉活動への支援に注力しました。

助成金・寄付金の交付額は、社会事業分野に55件、16,516千円、学芸技術教育分野に11件、4,095千円、寄付に5件、3,100千円となり、助成金・寄付金合計では、70件、23,711千円で、36,930千円の過去最高額を記録した前年度からは13,218千円減少しました。助成金等の明細は、後記Ⅱの通りです。

(2) 収益事業

本会では、助成財源創出のために賃貸マンション（8戸）を保有しております。今年度は、空室が少なく、賃貸収入は、18,184千円、前年度比1,096千円の増加となりました。

(3) その他

本会が松阪市に寄贈した原田二郎旧宅は、市の教育委員会による積極的な運営のもと松阪市の文化遺産として根付いてきており、本会も引続き記念展示品の提供などを通じて支援しております。ま

た、2016年は松阪市本居宣長記念館の改修にあたり、当会が助成を行ったことを受け感謝状が市長から贈呈されたほか、桜の苗木の贈呈を開始して10年となる等、当財団及び原田二郎の松阪での認知度も高まってきております。本会では、原田二郎の生誕地である松阪の文化活動には、今後も地道な支援を行って参ります

以上